

継続して仲間との関わりを

仕事・職場実態から

NRU 国労せんだい

NO. 2480
2006年12月27日
発行責任者 太田 博二
編集責任者 武田 昌仙

地本組織対策会議より

12月17日、地方本部は全支部及び全分会を対象とした、第一回組織対策会議をくろくろつ会館で開催した。
会議は地本組織部長の中島副委員長の挨拶で始まり、地本太田委員長の挨拶を受けた後、工ア本部武田執行委員から情勢報告がされた。会議はより深い討論が出来るように、分散会を設置し、職場組織状況を報告し合い、お互いの職場の取組みを学びあった。

各職場の報告から 分散会終了後の座長報告

職場単位（同種仕事）の分会から連合分会になり、突っ込んだ話が出来ない。遠距離通勤かつ勤務がバラバラ
若い人を誘うとき、少ない小遣いから奢っている。対策が必要。
駅業務の組合員が若い乗務員に「駅では泊まり勤務時3回外食をしなくてはならない。やむを得ずカップラーメンを食べている」と話しかけると乗務員も「一回の勤務で3〜4食外食せ

ざるを得ず、やはりカップラーメンを食べている」という話になった。日常の話から共通の課題や問題点をつかむことが必要。
郡総と幹総とで相互に職場見学交流があった。国労としての訪問であったので入れないと心配していたが何事もなく終了した。職場の組合員も喜んでいた。
酒飲みをしてもその先のもう一歩が出ない。日常の会話や付き合いを通して拡大を目指す。
飲み会は退職者が多くなっていることが影響して増えている。集まることも多く

集約では

なれば不満も出てくる。こういうことも必要。
通勤や勤務が大変な状況の中でも、工夫して機関会議を開催したり、若い仲間との関わりを持つ努力がなされている。
これからの組織の強化と拡大を目指して取り組みを

進めてほしい。

07春闘では職場要求を集約し、現場長交渉を取組んでもらいたい。また若い仲間との関わりを継続し、拡大を目指してもらいたいとの提起がされた。

第二回組織対策 会議を開催します

1月27日、仙台市宮城

自治労会館において組織対策会議を行います。東日本エリア内の平成採用の組合員も多数参加する予定です。
是非この機会に若手組合員の意見や考えを聞き、また討論する中から展望を切り開きましょう。支部・分会代表者が対象ですが、希望者はぜひ参加をしてください。

郡山工場支部大会より

11月26日、郡山工場支部は郡山市内橋公民館において、第76回定期大会を開催した。

主催者を代表して挨拶に立った橋本守弘執行委員長は「職場では続発する車両事故などの安全問題、そして東日本会社との和解に対する意見の違いがあるなど課題が山積しているが、この間の闘いをしっかりと総括し、団結を強化する中から今後の運動の展望を切り開こう」と結集した組合員に訴えた。

活発な討論を展開

経過と方針討論では、配転等和解問題についての意見が集中した。

和解問題でも筋を通してやってきた。筋を通し大勢の流れに抗して行くことは大変なことだった。その結果、この一年で組織が強くなり、一人一人も強くなったと感じる。この私たちの頑張りや平成採用者に見せる中で、組織拡大も頑張っている。職場の闘いでJRを追い込み闘争団のJR復帰を勝ち取る。との集約がされた。

2006年度執行体制

また安全問題については、職場の安全設備改善の取り組みを求める意見や支部安全集会の継続を求める意見など、活発な討論がおこなわれた。
最後に橋本書記長より、「会社の様々な攻撃に対して筋を通して物申してきた。」

執行委員長	橋本 守弘
執行副委員長	大橋 利明
書記長	橋本 光一
執行委員	大川原邦幸
同	千葉 秀治
同	本田 要一
会計監査	熊田 弘征
同	藤崎 健一



総団結を訴える橋本委員長

仲間の顔が何より嬉しい

地域間異動者激励会

11月25日、32回目となる仙台地本の地域間異動者激励交流会が東京の大井町で開催された。交流会には、地域間異動中の組合員7名(鈴木幸春さん、大内直一さん、坂内哲雄さん、佐々木芳則さん、後藤秀一さん、大友清貴さん、村上正博さん)とその家族1名(鈴木幸春さんの奥さん)が、また仙台地本から3名、宮城県支部から6名、福島県支部から2名の19人が参加をし、来賓として、東日本本部伊藤委員長、全交運共



久しぶりの再開に話もはずむ



済東日本事業部宮坂部長、千葉地本小林書記長が激励に駆けつけた。

参加者は、久しぶりの仲間との再会を喜び、お互いの近況報告を行った。10月23日に、仙山線の東照宮駅から中央線の大久保駅へ異動発令された村上さんは、「1巡目の時よりも、業務量が随分と増えていると感じる」と話し、駅業務が一層合理化されている事を物語っていた。

また交流会に先立って職場訪問をしたが、その一つである渋谷駅では凄まじい人の流れにただ驚くばかり。

仙総支部で闘争団との交流

解決に向けて意思統一 仙台闘争団高橋団長を向かえ

仙総支部は11月29日、毎年恒例となつた「仙台闘争団との交流集会」を開催した。同支部は早期解決に向けて運動の一つとして毎月の物販を取り組んでおり、冬の取り組みに向けた「焼酎セット等」推進と不採用事件の経



状況報告する高橋仙台闘争団長

過を全体で確認し、今後の運動の意思統一を図るために取り組んだもの。集会では地本橋本副委員長からILOから出された

第7次勧告の中身について、また東日本会社との和解を受け、今後の取り組みなどが報告された。仙台闘争団の高橋団長からは4団体の要求(年金、雇用、解決金)についての詳細と、政治解決に向けた訴訟の内容について、更には仙台闘争団の現状等が報告されました。

また、幹総に出向されている佐藤忍さんの運転士復帰の報告も行われ、今後職場の様々な問題、不採用問題を支部全体で解決に向け取り組んで行くことを確認しました。

ご遺族援護資金ご協力をお願い 故河村恵司さん

過日急逝された、仙台駅

窓口立ち旅客の対応をする仲間の苦労を垣間見た。

連合分会所属・故河村恵司氏の「ご遺族に対する援護資金の協力要請が、地本・太田委員長、宮城県支部・秋山委員長、仙台駅連・赤間副委員長の連名で要請され

要請文(抜粋)

これまで私達と共に闘ってまいりました「河村恵司氏」は職場復帰を目指し、入院加療中でありましたが、2006年11月10日、帰らぬ人となりました。本人は地域間異動の二巡目中に大腸癌が発見され一部の摘出手術を行いました。本年6月19日の人間ドック受診で異変が見つかり「急性白血病」と診断され治療に専念

してあります。

故人は国労仙台地方本部青年部長、宮城県評青婦協議長等の役職を努めながら、県内の青年、婦人の先頭に立って労働運動を展開し、以降JRに移行後も国労仙台駅連合分会の分会長として国労・分会運動の牽引役でした。故人の死は共に闘ってきた我々にとって非常に残念でなりません。

また残されたご家族の心情を察する時、二人の様子と働き手の奥様ひとり(現在失業中)という状況の中では広く仲間の皆さんに温かい励ましを賜りたく、ご支援を心よりお願い致します。

ご厚志 送金先
東北労働金庫本店営業部
国労仙台駅連合分会
昆野正則
口座番号「59843333」

ご厚志 提出者名簿送付先
国労会館3F宮城県支部内
仙台駅連合分会 宛
FAX:JR 031-3991-
NTT027-2997435

